

Title: 「潜水するひつじ」



高橋 知佳
1989年生まれ。他称・じゃじゃ馬。ついに本の世界から現実世界へと飛び込みます。

● 最近のエントリー

- ☐ シェムリアップ初日のこと。
(2009.04.29)
- ☐ "ヌックと出た、骨の尖"
(2009.04.20)
- ☐ アオザイ? いいえ、カオダイです。
(2009.04.15)
- ☐ 喜しき供物
(2009.04.12)

● アーカイブ

- ☐ 2009年10月
- ☐ 2009年09月
- ☐ 2009年08月
- ☐ 2009年07月
- ☐ 2009年06月
- ☐ 2009年05月
- ☐ 2009年04月
- ☐ 2009年03月

● 投稿カレンダー

● カテゴリー一覧

● ブックマーク

学校法人 日本写真芸術専門学校
NIPPON PHOTOGRAPHY INSTITUTE



RSS 2.0

潜水するひつじ > 2009年04月 アーカイブ

09.04.29

| シェムリアップ初日のこと。

[Tweet](#)[Check](#)

バスの休憩所で発見した、八岐大蛇。
まだ雨期には入っていなかったの、すっかり干上がってありました。

さて、我々4期生はシェムリアップでひとつイベントがあります。
孤児院スナダイクマエに会場をお借りし、写真展を開催すること!

シェムリアップ先発隊の志村くんとともに、スナダイクマエに挨拶や会場の下見など。
移動したばかりだろうと休む暇はありません。



これが会場。見ての通り、屋外です。

写真展のテーマは"日本の雪景色"
カンボジアの暑さを吹き飛ばすぞー!と、
士気を高めるために、夕方には藤井校長の写真展にも行ったり。



偶然にも、校長の写真展も半屋外。
実は屋外が会場なことに少々不安を感じていた部分もあったのですが、
やわらかい風を受けながら見る写真って、いいもんだな、と思えました。

カテゴリ:

post by 高橋 知佳 | 日時: 2009.04.29 | [パーマリンク](#) | [コメント \(2\)](#) | [トラックバック \(0\)](#)

潜水するひつじ > 2009年04月 アーカイブ

09.04.20

| "ヌックと出た、骨の尖"

[Tweet](#)[Check](#)

「ホラホラ、これが...」

と、歴史の音が聞こえてくる想いだった。



“キリング・フィールド”



宗教を撮っている以上、自然にからんでくるテーマが「戦争」「生命」。
だからここはどうしても、来なければならぬ場所だった。



風通しの良い館内を、湿った風が吹き抜ける。
射し込む光が、床の色を鮮やかに見せつける。
少し、息苦しくなった。
処刑された人々のポートレートが放つ眼光に、
自然と歩みも遅くなる。

悔しいけれど、見ている間はいっぱいだった。

問題はこれからだ、と今日の記憶をかみしめる。

明日、シエリアアップに移動します。

カテゴリ：

post by 高橋 知佳 | 日時: 2009.04.20 | [パーマリンク](#) | [コメント \(2\)](#) | [トラックバック \(0\)](#)

[潜水するひつじ](#) > 2009年04月 アーカイブ

09.04.15

アオザイ？ いいえ、カオダイです。

[Tweet](#)

[Check](#)

もはやベトナムの宗教を語る上では外せない、
新興宗教・カオダイ教。





総本山のあるタイニンに泊まりがけで、コソコソと礼拝を撮影中。
ホーチミンから、クチトンネルとセットのツアーでサクッと来るのがスタンダードな寺院なので、
2度目の訪問のとき、
「あれ？ また来たの？」
とだいぶ驚かれ。同時に喜ばれ。
教主らしきものをくれたり、「おれのこと撮っていいぞ！」とジェスチャーしてくれたり。

「やっぱり通うって大切だな！」としみじみ。



思えば1年生のときから宗教を撮っているものの、
新興宗教を撮るのは初めてだった。

新興宗教はとっつきにくいイメージがあっただけれど、
カオダイ教の人々は皆ほがらかで、
「え、いいの？」って聞き返したくなるくらい、受け入れてくれる。
カオダイ教の考え方自体も、嫌いじゃない。

さっくりとカオダイ教について説明すると、
儒教、道教、仏教、キリスト教、イスラム教の複合宗教。
要は一神教も巻き込んだ多神教。
新しい！
そして聖人の列にはなぜかトルストイやヴィクトル・ユゴーなどの文豪まで挙げられている。

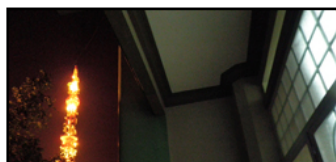
「それならばぜひ手塚治虫も！！」
と、私がもしベトナム語堪能だったら言ってしまうかもしれない。
危うし、危うし。

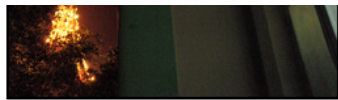
宇宙がどうの、至上神がどうの、
本当はもっと複雑で高尚な構造があるのだろうけれど、
リサーチ不足な私がとらえず感じたことは、「道徳」。

他の宗教よりも、敬愛の念が強い。それも自分たちと同じ、人間に対しての。
だからこそ聖人の列に、一般的に偉人と呼ばれている人々が並ぶのだし、
われわれ訪問者を無下に扱うこともしない。
寺院のバルコニーから無邪気に顔をのぞかせる幼い信者を見て、
ますます学校の道徳の時間を思わせられた。
学校でわざわざ教えるくらい大切に、
でもわからない人にはわからない「敬愛」。
そこに着目したカオダイ教は、うん、嫌いじゃない。

礼拝の時間を待つ男性信者の群れに紛れて、私も座っていた。
真っ白なアオザイの中、ひとり〇の鳥のTシャツを着た私はひどく浮いていて、
目の前を横切っていくツアー客の好奇の目にさらされ続けていた。
信者にベトナム語で話しかけられ、全くわからず
「うふふ、うふふ」
ととりあえず笑ってみたり。
なんとなく正座してしまった足に、自分の日本人らしさと
痺れを感じたり。

ベトナムは結構痛い目も見たけど、なんだかんだ楽しんでるな、とふと思った。





ちなみに田舎だとばかり思っていたタイニンには、東京タワーを思わせる立派な鉄塔が。うーん、ほどよくノスタルジック！

カテゴリ：

post by 高橋 知佳 | 日時: 2009.04.15 | [バナーリンク](#) | [コメント \(0\)](#) | [トラックバック \(0\)](#)

[澁水するひつじ](#) > 2009年04月 アーカイブ

09.04.12

哀しき供物

[Tweet](#)

[Check](#)

ハロン湾からハノイに帰ってきて、初めて来たときには気にならなかった、そのけたたましさに気付く。

けれど聖地がないわけではない。



物乞いにはりつかれながら、車で2時間。雨に降られながら、手こぎ舟で30分。

“香（フオン）寺”



雨のおかげで涼しい湿度に満ちている外とは違って、信者の静かな熱狂にほてる寺院内は、立っているだけで汗ばんだ。

拝み、去り。去ったところでまた拝み、去り。途絶えることを知らない信者の流れに、少し目が眩んだ。

舟をこいでくれたお婆さんは、「ここには雪がいるから、願えばなんだって叶うよ」と、微笑みをたたえて言った。自然とともに生きることも、霊とともに生きることも、ここでは同意義で、当然のこと。アニマって、きっとそういうこと。



たくさんの“いいもの”をこの大地からもらったけれど、

同時に失うものもあった。

ベトナムらしい濡しかないトイレで、むわっと攻めくる臭気に吐き気を誘われつつ、
なんとか用を終え、逃げるように立ち去ろうとしたときのこと。

ふと、振り返ると溝の中になにやら黒いものが落ちている。

嫌な予感に、顔が曇る。

おそろおそろ戻ると、ああ、やっぱり、と巨大な哀しみが押し寄せた。

ストロボのクッションケース、落としちゃいました。

とりあえず拾いあげてみたものの、
落ちた溝が支流ではなく本流、つまり他の方々が済ませたものも流れる溝で、
流れきっていないものもあるわけで...
黒いはずのケースが茶色くなっているわけで...

力をなくした指先から、ケースは再び溝の中に落ちた。

無理だ。

水で洗おうともお湯で洗おうとも洗剤で洗おうとも、

さすがにこれは無理だ！

というわけで私のストロボケースは、
聖地に単身留まることになったとき。ちゃんちゃん。

カテゴリ:

post by 高橋 知佳 | 日時: 2009.04.12 | [パーマリンク](#) | [コメント \(2\)](#) | [トラックバック \(0\)](#)

[潜水するひつじ](#) > 2009年04月 アーカイブ

09.04.09

フィールドワーカー。

[Tweet](#)

[Check](#)

無線LAN目当てに、遠い詰めたハロン湾のカフェ。
オーダーはいつも同じ、ベトナムコーヒー。

3日目の今日、クッキーがサービスでついてきた。



その土地に馴染み始めた頃に、出発の日がやって来る。

街と街をまたくたび、

国と国をまたくたび、

“またここに来ることはあるのだろうか？”

と、流れゆく景色に問いかける。

まだ日本を出てから1ヶ月も経っていないのだと思うと、
なんだか不思議な心地がする。

カテゴリ:

post by 高橋 知佳 | 日時: 2009.04.09 | [パーマリンク](#) | [コメント \(2\)](#) | [トラックバック \(0\)](#)

[潜水するひつじ](#) > 2009年04月 アーカイブ

降龍の海

[Tweet](#)

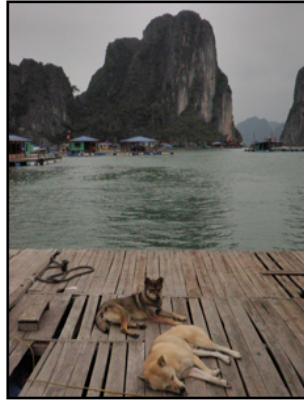
[Check](#)

ハ（降りる）ロン（龍）。

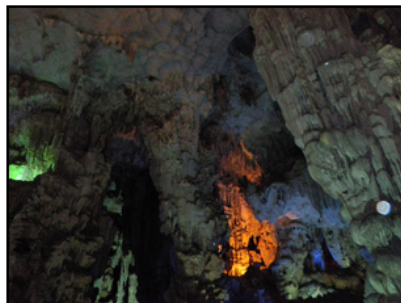
名前に伝説を抱く、ハロン湾にやって来た。



水上集落。



そこにはないはずの“なにかしら大きな存在”が、
確かにこの地には影を落としていた。



鍾乳洞では、必ずと言っていいほど
光の玉が映り込む。

“なにかしら大きな存在”に対して、私たちは
祈ることもでき、願うこともでき、

屈することもでき、臨むこともでき、
つばを吐きかけることもできる。

でも、私のしたいことは、そんなじゃない。

答えはもう出ている。



カテゴリ:

post by 高橋 知佳 | 日時: 2009.04.09 | [パーマリンク](#) | [コメント \(2\)](#) | [トラックバック \(0\)](#)

[潜水するひつじ](#) > 2009年04月 アーカイブ

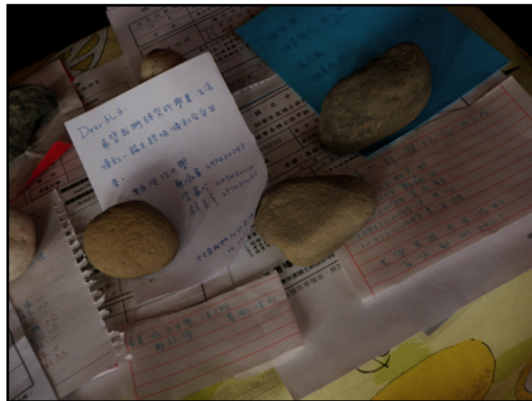
09.04.05

子曰く

[Tweet](#)

[Check](#)

台湾で撮影した、2カ所の孔子廟。



祭壇に、「Dear 孔子」と書かれた手紙が置いてあったり。



観光スタンプが設置されていたり。





孔子がイメージキャラクターをつとめるカフェが併設されていたり。

どうやら孔子は、台湾ではものすごく親しみやすいようです。

ちなみに私は中国思想も中国文学も大好きなだけに、
なぜか論語はいまだに読んでいません。
なんだかスタンダードすぎて、ついつい後回しに。

そして中国文学の中でも、とりわけ好きなのが三国志。
入学したての頃、山本さんが中国語べらべらと知るやいなや、
「周瑜ってなんて発音するの!? 孫策は!？」
と食いつきました。
そのとき一緒に教わった中国語がひとつ。
「ショオ ツァオツァオ ツァオツァオ ジョー ダオ」
日本語に訳すと「噂をすれば影」
中国語本来の意味は「曹操の話をする と曹操が来る」
曹操の情報収集力を暗示している、非常に興味深い言葉です。

けれどこの言葉、台湾では出番がありませんでした。
本場中国では果たして...!?

カテゴリ:

post by 高橋 知佳 | 日時: 2009.04.05 | [パーマリンク](#) | [コメント \(0\)](#) | [トラックバック \(0\)](#)

[灌水するひつじ](#) > 2009年04月 アーカイブ

09.04.01

行きはよいよい、帰りはこわい

[Tweet](#)

[Check](#)

3月31日、撮影地「佛光山」。



高雄からバスで1時間。

山一つが仏教施設になっていて、パノラマを撮りたくなるほど、広々とした造りになっている。
各国語のパンフレットが置いてあって、日本語版を手に取ると、警備員に

「君はこれだる女」

と中国語版を渡される。

「ウォーシー リーベンレン! (私は日本人です)」

私はそんなに中国っぽい顔なんだろうか。



そんなことがありながらも気持ちよく撮影を終え、帰りの段階のこと。

バス停にいたおじさんに高雄行きのバスの時間を教えてもらい、

ほぼ時間通りにバスがやってくる。

乗り込むと、しかし、運転手に乗車を拒否される。

狼狽のあまりおとなしくバスから降りた。

「また中国人だとも思われたんだろうか？」

いや、でもいくらなんでも拒否はないだろ!」

そう思うとだんだん腹が立ってきて、

この際歩いて帰ってやるぞと、憤然と歩き出す。

するとさっきのおじさんが慌てて追いかけてきた。

「30分後に次の便もあるから、ちゃんとバスで帰りなよ」

その言葉に冷静さを取り戻し、引き返す。
ベンチを温めながら、むなしく時間が過ぎてゆくだけかと思われたが、突然おじさんがフェレットのようになにかを察知する。

「着いておいで」

と手招きしながら歩き出した。

その先にはひとりの尼さんが。

日本に留学経験のある尼さんだった。日本語で優しく話しかけられた。

「バス乗れなかったか〜。じゃあタクシー手配してあげる！ホテルまで一緒に行こう」

まさかのドライブが決定。

「仏教に興味あるならうちの学校入ればいいのに〜」

車中、はしゃぎながら話す尼さん。

ふと昼ご飯はちゃんと食べたのかと聞かれ、そういえば撮影ばっかしてたから食べてないなあと思いついて首を振ると、尼さん驚愕。

「どうしましょ！いったん車止めてパンでも...」

今度はこっちが驚いて、ホテル着いたらちゃんと食べますから、と説得を重ねた。泣き引き下がる尼さん。

そして着いたら着いたで、フロントのお姉さんに

「この子が困らないように、ちゃんとサポートしてあげてよ！」

と熱弁をふるう。突然の出来事に困惑するお姉さん。

傍観しながら、優しさに情熱が加わるところなるのかあ、とぼんやり考えていた。

「なにかあったら電話してね」

と携帯の番号のメモを私に渡すと、嬉々とタクシーに再度乗り込み、彼女は去っていった。

感謝すると同時に、なんかすごかったなあという思いが残った。



夜、部屋の電話が鳴る。怪訝に思いながらも受話器を取ると、尼さんだった。

「あ、高橋さん？ ちゃんとご飯食べた？」

カテゴリ：

post by 高橋 知佳 | 日時: 2009.04.01 | [パーマリンク](#) | [コメント \(0\)](#) | [トラックバック \(0\)](#)